

「無料職業紹介事業を活用した取組」

1 市の概要（平成30年度）

人口	397,682	人
保護率	2.51	%

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり (件) 一月当たり	32.5
プラン作成件数人口10万人当たり(件) 一月当たり	13.0
就労支援対象者数人口10万人当たり (件) 一月当たり	7.0
就労・増収率(%)	58.6

3 実施方法について

実施方法	直営 + 委託（無料職業紹介は直営）
事業費	71,870千円の内、5,822千円 （人件費部分を自立相談支援事業に位置づけ）
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"> 就労に関する相談者数が増える過程で、就労困難者は一般の求人情報では、年齢や就業時間といった条件にマッチせず、求人に応募すらできない。 就労困難者はその条件がクリアできないからこそ就労困難な状況におかれている。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 直営の自立相談支援機関において、職業安定法に基づく無料職業紹介事業を実施し、独自に市内等の事業所にアプローチを行い、相談者の状況に応じた求人開拓を実施。 自立相談支援機関に就労支援員2名を配置し、求人条件の緩和の交渉や業務の切り出しによる独自求人を一般求職者には非公開としてマッチングしている。 障害者向け合同面接会、清掃・警備の合同面接会等を開催
その他特記事項	独自の求人情報に加え、ハローワーク求人情報のオンライン提供を利用し、パソコンによる検索、閲覧が可能。

4-①事業実績 自立相談支援事業（直営+委託）（H30年度）

新規相談受付件数	プラン作成件数	就労支援対象者数	就職者数	増数者数
1,550人	618人	336人	195人	60人

4-②事業実績 無料職業紹介所（直営・合同面接会含）（H30年度）

新規求職者数	新規求人数	求人件数	求人企業数	紹介件数	就職件数
1,209人	5,013人	2,066件	1,559社	791件	225件

5 事業実施ポイント ～企業支援の視点～

Point

- 相談者の状況に応じた求人開拓とマッチングを行うことができ、相談者の就労後のフォローアップ・定着支援まで行う。
- 企業訪問により、企業側のニーズにも寄り添う。
- 必要に応じて応募先企業での事業所内実習(5日間)を依頼し、就職後のミスマッチを防止する。

人材紹介

合同面接会

特定求職者雇用開発
助成金の取扱

事業所内実習

職場定着支援

メールマガジン配信
による情報提供

事業所見学会

企業支援セミナー

6 取り組んで良かったこと

就労支援員自身の企業理解、職種理解が進むことで、求人票だけでは分からない具体的な企業情報や仕事内容を相談者に伝えることができ、マッチングの精度があがった。

「他制度や社会資源を活用した取組」

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり(件)	一月当たり	32.5
プラン作成件数人口10万人当たり(件)	一月当たり	13.0
就労支援対象者数人口10万人当たり(件)	一月当たり	7.0
就労・増収率(%)		58.6

1 市の概要（平成30年度）

人口	397,682	人
保護率	2.51	%

3 実施方法について

実施方法	自立相談支援事業：直営＋委託（社会福祉協議会他） 地域力強化推進事業：補助（社会福祉協議会へ補助）
事業費	自立相談支援事業：71,870千円 地域力強化推進事業：24,000千円

課題・対応

- ・地域に潜在化している困窮者については、自立相談支援機関に繋がっていないケースや、ごみ屋敷のケース等では、本人に困り感がないなど、SOSの発信がなく、潜在化していたり、各関係機関で抱えたままになっているケースが多数あり、アプローチ方法を検討する必要がある。
- ・これらの地域課題の解決には関係機関での連携が必要な場合や、住民、民生委員・児童委員等との連携など、地域住民と自立相談支援機関が連携して、早期発見・早期支援につなげていく必要がある。

事業概要

地域に潜在している困窮者の早期発見及び日常生活圏域ごとにコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置し、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業における地域力強化推進事業を活用して、課題が多い地区に対する「ローラー作戦」による全戸訪問を実施。

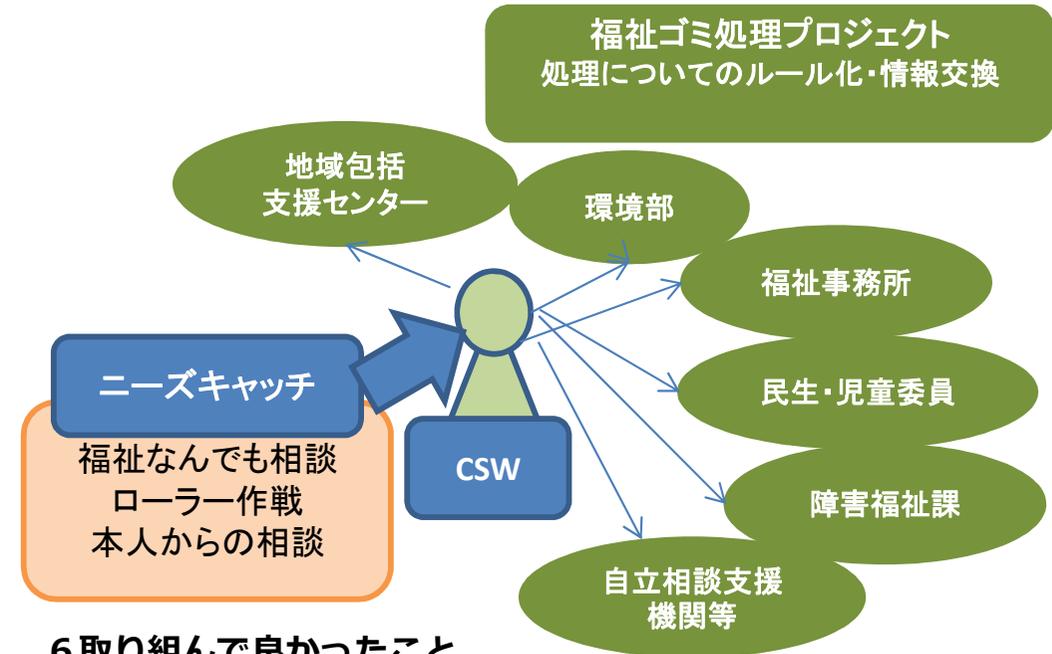
ローラー作戦や、福祉なんでも相談により発見された、生活困窮者自立支援制度による支援が必要なケースは、CSWから自立相談支援事業の相談支援員につなぎ、潜在化した課題を生活困窮者自立支援制度の支援プランに位置付けて、解決に向けた支援を行う。

4 事業実績（H30年度）

ローラー作戦
（民生・児童委員、校区福祉委員、地域包括支援センター、CSWによるエリアを限定した全戸訪問）
実施回数 12校区・53回・3,563軒訪問
福祉なんでも相談窓口
実施内容 37校区・相談件数508件

5 事業実施ポイント ～地域の発見力から支援につなぐ～

Point
アウトリーチにより地域に潜在化した課題を早期に発見して、自立相談支援機関による支援に早期につなぐ。



6 取り組んで良かったこと

- ・ローラー作戦や福祉なんでも相談からアウトリーチ型で相談を掘り起こし、関わった住民と一緒に解決を図ることで、地域の発見力を高めることにつながった。
- ・待ちの姿勢では相談機関に繋がってこないケースを、状況が重症化する前に支援に繋ぐことができた。